

※答えは全て解答用紙に記入しなさい。

受験番号

()

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間の創造性を飛躍させる媒質というものがある。たとえば石器時代における「石」。「石器時代」という言葉が耳になじんでいるせいか、石を使うことがあたかも初めから決まっていたかのように僕らは錯覚してしまうが、直立歩行を始めた最初の人類にとって「石」は、「手」を用いることそのものを^ア覚醒させる決定的な媒質となったはずである。石の「硬さ」や「重さ」、そして「程よい加工適性」は、直立歩行して自由になった人間の手を創造へと誘う恰好の素材であった。硬さや重さは、ものを^イハカイしたり切断したりする意欲を人間にもたらし、その手触りや手応えは、道具を使用する充足感へと人間の感覚を目覚めさせていったはずだ。つまり、「石」が^ロ人間の手と感覚を覚醒させ、石器時代をドライブさせたのである。

さらに言えば、石器を作るという行為は、ただ作るのではなく、よりよく作る、より美しく作るという意識をも目覚めさせたかもしれない。石で石を打ちかいて、あるいは石で石を^ウミガいて、先鋭な刃が製作されたわけだが、何万年もの時代を経た今日においてすら、それは十分にその達成に満足している^ニ。バランスと完成度をたたえている。発掘された石器の数々を見てみると、そういう感慨を覚えるのである。

^③紙もまた同様である。紙は今日「印刷メディア」と呼ばれることが多いが、旧メディアの古めかしさをすべて紙に背負わせてしまうような言い方には違和感がある。紙はたしかに文字とのかかわりにおいて人間の創造性を触発したはずだが、その魅力は単に印刷できる枚葉性に集約されるものではない。紙の触発力は、第一にはその「白さ」においてであり、さらにはその「張り」においてである。自然物のなかで、白いものはさして多くはない、そのなかでも紙は抜きん出て白い。ベージュの樹皮を叩きほぐし、水中に^エセンイを分散させ、漉簣で掬い上げて天日に干すと、まぶしいほど白い物質が出現する。それは指で挟むとぴんと立つほどのあえかな腰をもつ。白く、そして張りがあるということは、逆に言えば汚れやすくこわれやすい、きわめて華奢な存在である。

この^アたおやかなる薄く白い張りの上に、人間は「墨」で黒々と文字や絵を描いたのである。それは決して後戻りのできない不可逆性への跳躍であり、未発なるものが明晰に成就していく瞬間を次々と自覚する手応えの連続であったはずだ。びっしりと聴衆で埋まり、静まり返ったコンサートホールで、ソロ^オエンソウのバイオリニストが最初の一言を発するときのような緊張を、紙はつねに人間にもたらしてくれるのである。失敗するかもしれないが、すばらしいパフォーマンスが生み出されたならば、白い紙の上にはその達成が輝かしく屹立する。^④そのような紙の触発力によって、言葉や図を記し、活字を編んでいく能動性が、人間の感覚の内にもたらされた。覚悟も、決意も、ふるまいも、所作も、永遠や刹那に対する感受性も、人間は紙に躓けられてきたのだ。それは今日においてなお続いている。

原 研哉「日本のデザイン」

問一 傍線部ア～オについて、カタカナは漢字で、漢字はその読みを平仮名で書きなさい。

問二 波線部A「たおやか」と似た意味をもつ語を、次から一つ選びなさい。

ア しなやか イ あざやか ウ しめやか エ ささやか オ すみやか

問三 傍線部①の「人間の手と感覚」の「覚醒」について説明した、次の一文の空欄「」と「」を補うのに適切な語を、本文からそれぞれ抜き出して書け。

「石」という素材は、人間が手を使う契機となり、「」や新たな「」を呼び起こした。

問四 傍線部②について、石器の「完成度」が高いと感じる理由を、筆者は何に見ているか。最も適切なものを、次から選びなさい。

ア 技術力 イ 美意識 ウ 想像力 エ 創意工夫 オ 普遍性

問五 傍線部③と述べる筆者は、どのような観点から「紙」について考察を進めているか。次の文の空欄を補うのに適切な語句を、本文から二十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

枚葉性だけでなく、白く張りがある反面、「」点に、その魅力があるという観点。

問六 傍線部④について、「紙の触発力」はどのようなところで発揮されるのか。「そのような」のさす内容をふまえて、解答欄に合うように三十字以内で書きなさい。

「」ところ。

問七 筆者の述べる人間と「紙」の関係として、最も適切なものを、次から選びなさい。

ア 製作困難で貴重な白い紙を汚す覚悟が、人間のパフォーマンスを向上させた。
イ 紙の不可逆性に向きあうことで、人間は精神性や起居動作、価値観を身につけた。
ウ 紙に文字や絵を描いたことをきっかけにして、人間は様々な文化を形成させた。
エ 白い紙に黒々とした墨で文字を書くことで、人間は自らの思考を可視化させた。
オ 複雑な工程で作られた紙を媒体に、人間は多様なパフォーマンスを完成させた。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

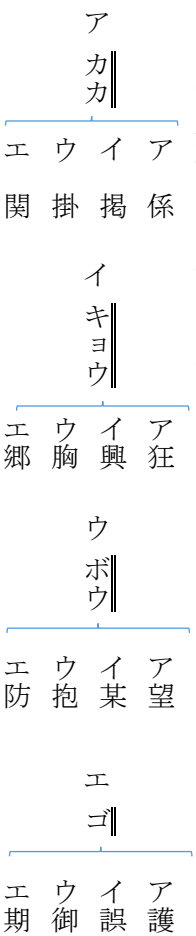
1 ものを長い目で見る余裕がなくなったと言ってもいい。仕事場では、短い期間に「成果」を出すことが要求される。どんな組織も、中期計画、年度計画、そしてそれぞれに数値目標をアカカ¹げ、その達成度を測らないといけない。考古学や古代文献学をはじめ、人類文明数千年の歴史の研究だって、数年単位で目標を立て、自己点検をし、外部評価を受けねばならなくなった。外食産業やコンビニの新店・閉店のリズムもとにかく速い。見切りが速くなり、待ってもらえなくなった。「ふるさと」のたたずまいも、いつももあるものではなく帰²イキヨウ³のたびに表情を変えている。

2 待つことができなくなったのはなにも組織だけではない。例えばパソコンの操作。新しい機種を知ってしまうと、ちょっと古い型のコンピュータの変換操作を待ってられない。数秒の間がじれったくなり、指が机をたたき、脚が小刻みに震えだす。テレビのコマーシャルも、辛⁴ボウ⁵できるのはせいぜい十数秒。テレビが出たての頃は、風邪薬のコマーシャル・ソングもなんと三番まで歌っていた。いま流れるのは一曲のさびの部分だけだ。そしてなによりも、子どもが何かにぶち当たっては失敗し、泣きわめいては気を取りなおし、⁶紙糸⁷曲⁸折、「A」往「B」往した果てに、気がついたらそれなりに育っていたというような、そんな悠長な時間など待てるひとはいなくなっている。高齢者の介⁹ゴ¹⁰も、そう。果てしないそのプロセスのなかで、「まあ、しゃあないなあ、えろう世話にもなっ

たし、お互いさまやし……」とついに覚悟を決めるより先に、解決のための方策を探っている。「いよいよか……」と血相を変えて。

鷺田清一 『待つ』ということ

問一 二重傍線ア～エのカタカナを漢字に直す場合、それぞれのアからエの中のどの漢字が最も適切かその記号を答えなさい。



問二 波線部「紆余曲折」の意味として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 事前にいろいろ考える過ぎ、動けなくなる事。

イ 方法を誤り、思わぬ結果になってしまう事。

ウ 事情が込み入っていて、いろいろ変わる事。

エ さんざん迷った結果、初めと同じ道を選ぶ事。

問三 「A」・「B」に漢字を一字ずつ入れて、四字熟語を完成させよ。

問四 ①と②の段落の関係について説明したものととして最も適切なものを次の中から一つ

選び、記号で答えよ。

ア ①で述べたことと同じ現象について、②では違う観点から論じている。

イ ①で説明した現象の背景を、②でさまざまな事例を挙げて考察している。

ウ ①で挙げた現象とは対立することがらを②で挙げ、両者を比較している。

エ ①で取り上げた現象の結果起こってきた変化について、②で指摘している。

問五 傍線1「新しい機種を知ってしまうと、ちょっと古い型のコンピュータの変換操作を待っていない」とあるが、これはなぜか。三十字以内で説明せよ。

【三】

問 次のことわざを完成させ下の意味になるよう空欄にあてはまる漢字を一字入れなさい。

- a 青菜に（ア） 急に元気がなくなること
- b （イ）後の筈 物事が次から次へと起こってくるたとえ
- c 怪我の（ウ）名 失敗が逆に良い結果になること
- d （エ）陰矢の如し 月日の過ぎ去るのが非常にはやいことのとたとえ
- e （オ）車に乗る 相手の言葉にだまされる